

近代日本研究のための  
資料の宝庫  
CD-ROM版完全版

編集・刊行 日本近代文学館  
製作・発売 八木書店

# CD-ROM版近代文学館 6

# 太陽

明治28年1月(創刊号)~昭和3年2月(終刊号)  
博文館発行



第1巻第1号



第8巻第9号



第16巻第9号 日英大博覧会



第20巻第3号



第18巻第3号 革命及革命的運動

日清戦争から昭和初年まで、あらゆるジャンルの近代日本研究に不可欠な一大総合雑誌、待望のCD-ROM化

## CD-ROM版近代文学館 6 「太陽」

博文館発行 明治28年(1895)1月~昭和3年(1928)3月  
全34巻531冊・総頁約17万5千頁

本体価格2,400,000円 画像CD-ROM77枚 / 『太陽総目次・執筆者索引』(菊判上製本+システムディスク)

### 分売のご案内

各集は画像データのみですので、分売でお買い上げの場合は『太陽総目次・執筆者索引』(システムディスク)が必要です。

| タイトル                         | 収録巻号数                                         | 冊数   | CD-ROM枚数 | 本体価格     |
|------------------------------|-----------------------------------------------|------|----------|----------|
| 第1集 明治期1                     | 第1巻第1号(明治28年1月1日)~<br>第9巻第14号(明治36年12月1日)     | 172冊 | 25枚      | 800,000円 |
| 第2集 明治期2                     | 第10巻第1号(明治37年1月1日)~<br>第18巻第16号(大正1年12月1日)    | 144冊 | 26枚      | 800,000円 |
| 第3集 大正期                      | 第19巻第1号(大正2年1月1日)~<br>第34巻第2号(昭和3年2月1日)       | 215冊 | 26枚      | 800,000円 |
| 太陽総目次・執筆者索引<br>(目録+システムディスク) | 総目次(菊判上製・約1,000頁)<br>執筆者索引はシステムディスク上での検索となります |      | 1枚       | 48,000円  |

消費税を別途お預かりします

太陽総目次・執筆者索引 本体価格48,000円

菊判上製函入(約1,000頁)1冊+CD-ROM(システムディスク)1枚

- 本書は、マイクロ版近代文学館「新潮」以来の編集方針を継承して、CD-ROM版「太陽」のために編んだもので、独立した書誌としても利用できるよう配慮しました。
- 創刊号から終刊号までを収録し、目録(本)とCD-ROM(システムディスク)の両方の特性を生かしたアプローチが出来ます。
- 目録は、総目次として、「太陽」34年間・531冊の見出しが全て閲覧できます。CD-ROMでは、縦横な検索・絞り込みができます。従来の紙の索引では、執筆者名の50音配列でしたが、デジタル化する事により、記事名からの検索・絞り込みが可能になりました。
- CD-ROMには、目録上に収めきれない、記事中の細目(小見出しなど)を追加、目録(本)の約2.5倍の情報量が収録されています。
- このCD-ROMは、独立したCD-ROMとしても使えるように、書誌的事項確認のために欠くことの出来ない各巻の表紙・目次・奥付の画像を収録しました。これにより原本のもつ時代の雰囲気を感じ取ることができます。

### 動作環境

CD-ROM版は右記のハードウェア環境で動作します

- 対応OS 日本語版Windows95SP1+IE4.0以上 Windows98 WindowsNT4.0 (SP3以上)+IE4.0以上
- CPU Pentium200MHz以上 (Pentium 以上を推奨)
- メモリ 64MB以上
- ハードディスク空き容量 50MB以上 (標準インストールの場合)
- CD-ROMドライブ 8倍速以上 (16倍速以上推奨)
- ディスプレイ解像度 800×600色以上のディスプレイ (1024×768 True Color推奨)

### マイクロ版近代文学館 ①~⑤(既刊)

| タイトル                           | 冊数   | 頁数       | フィッシュ枚数・CD-ROM枚数  | 函       | 本体価格       | 総目次・執筆者索引            | 頁数     | 本体価格    |
|--------------------------------|------|----------|-------------------|---------|------------|----------------------|--------|---------|
| 新潮                             | 490冊 | 105,135頁 | 1,317枚            | 13函     | 1,700,000円 | 新潮総目次・執筆者索引(菊判上製)    | 1,040頁 | 18,000円 |
| 解放                             | 105冊 | 26,177頁  | 321枚              | 4函      | 400,000円   | 解放総目次・執筆者索引(菊判上製)    | 274頁   | 4,500円  |
| 文章世界                           | 216冊 | 68,486頁  | 761枚              | 8函      | 1,000,000円 | 文章世界総目次・執筆者索引(菊判上製)  | 914頁   | 25,000円 |
| 新小説                            | 402冊 | 124,630頁 | 1,456枚            | 15函     | 1,900,000円 | 新小説総目次・執筆者索引(菊判上製)   | 894頁   | 24,272円 |
| 文章倶楽部(マイクロ版)<br>文章倶楽部(CD-ROM版) | 155冊 | 22,966頁  | 338枚<br>CD-ROM10枚 | 4函<br>- | 470,000円   | 文章倶楽部総目次・執筆者索引(菊判上製) | 786頁   | 22,330円 |
| 文藝通信(復刻版)                      | 42冊  | 2,856頁   | 菊判・アンカット          | -       | 135,922円   | 文藝通信総目次・執筆者索引(A5判上製) | 140頁   | 4,854円  |

マイクロ版・CD-ROM版近代文学館シリーズにはそれぞれ総目次・執筆者索引が付属しています。総目次・執筆者索引は、単品のご注文も承ります。

### 総目次・執筆者索引の特色

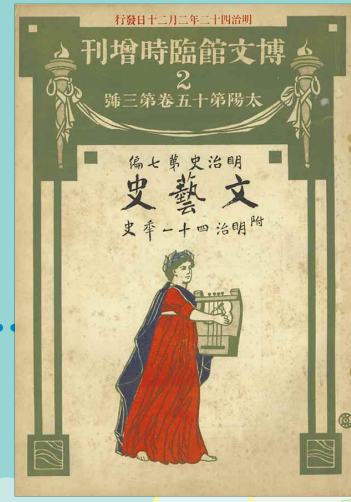
- 本マイクロ版・CD-ROM版近代文学館シリーズの各「総目次・執筆者索引」はマイクロ版のために編んだものですが、同時に独立した書誌としても利用できるよう配慮しました。
- 各々創刊号から収録最終号までの「総目次」と「執筆者索引」および解題からなっています。
- 「総目次」は巻号順に題名、筆者、掲載頁の目次、更に挿絵、口絵を加え、マイクロフィッシュの位置、及びCD-ROMナンバーを示したものです。
- 「執筆者索引」は、上記の「総目次」をコンピュータによって執筆者別に分け、その氏名を50音順に配列し、作品名や総題を記しました。
- また、各雑誌の特色を示すため、「文章世界」「新小説」など、ビジュアルな口絵や写真の多い雑誌には、口絵索引、写真目録を独立させて、目的に応じた検索が出来るよう配慮しました。
- 「文章世界」「文章倶楽部」では、投稿頁をカバーする独立した「投稿者索引」を設け、膨大な投稿者を50音順に配列しました。

商標：Microsoft、Windows95、Windows98、Windows NTは米国Microsoft Corporationの米国外及びその他の国における登録商標です。Pentium、Pentium IIは、米国Intel Corporationの登録商標です。

|                                                                                                                                                                     |            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| <p>編集・刊行 日本近代文学館<br/>製作・発売 八木書店 出版部<br/>【お問い合わせ先 八木書店出版部】</p> <p>〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8 TEL: 03-3291-2961<br/>FAX: 03-3291-2962 E-mail: pub@books-yagi.co.jp</p> | <p>取扱店</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|



# 刊行にあたって



第15巻第3号

ここにCD-ROM版「太陽」を刊行するに至ったことは、日本近代文学館として画期的な事業であるばかりでなく、日本近代の社会・文化全般の研究にとってきわめて意義深いものであると自負しております。

「太陽」は明治、大正期を代表する総合誌であり、政治、経済、社会はもとより、諸産業、歴史、地理、自然科学、文学、芸術、家庭など近代日本に関わるあらゆる分野の研究にとって必須の資料です。しかし、全五三二冊、一七万五千頁におよぶこの大部の雑誌を完全な状態で所蔵しているところはほとんどありません。

このCD-ROM版「太陽」がこうした研究資料として重大な役割を果たすことは疑問の余地がありません。しかも、CD-ROM版の性質上、検索等きわめて便利に利用が可能ですから、多くの研究者に活用され、多くの分野の研究に資するものと確信しております。

文学館は貴重な文学資料を収集、保存し、研究者等の閲覧に供し、さらにひろく公表することにその基本的な存在意義があります。このため、日本近代文学館はこれまで三十余種の文芸誌を複製、刊行してきましたが、複製が困難な大部の雑誌については八木書店と提携して「マイクロ版近代文学館」シリーズとしてマイクロフィルム化による公表を図ることとし、その第一集として、二十余年前「新潮」マイクロ版を刊行いたしました。「太陽」の複製もこのシリーズの中で計画し調査を進めてきたものです。

刊行のため膨大な労力を費して下さった編集委員の方々、刊行を許可して下さった著作権者の方々、刊行までの長い時間を辛抱強くお待ち下さった版元の博文館新社、その他八木書店はじめご協力いただいた関係者の皆さんに心からお礼申し上げます。

一九九九年十一月

財団法人 日本近代文学館

**「太陽」について** 博文館発行 / 明治28年1月～昭和3年2月 / 全34巻531冊・総頁約17万5千頁・執筆著者総数約6500人  
「文芸倶楽部」「少年世界」「文章世界」等、当時の主力雑誌を次々と手がけ、日本における総合出版社としての地位を確立した博文館。その博文館の代表的雑誌とも言われるのが「太陽」である。1894年末、政治・経済関係の雑誌を廃刊し、日清戦争後の社会変化に対応した総合雑誌として創刊された「太陽」は当時のオピニオンリーダーとしての役割を担っていく。代々の主筆は坪谷水哉、高山樗牛、鳥谷部春汀、浮田和民、長谷川天溪、平林初之輔。創刊号は、論説、史伝、地理、小説、雑録、文苑、芸苑、家庭、政治、法律、文学、科学、美術、商業、農業、工業、社会、海外思想、輿論一斑、社交案内、新刊案内、海外彙報、英文の24欄に分けられている。号が進むにつれ、この項目は変化していくが、政治、経済、社会に関する評論に重点を置きながら、諸産業の知識技術普及、芸術や文学、また家庭生活等その対象は広範囲にわたる。また各界の名士200人以上よりなる太陽名誉賛成員を掲げ、執筆も各分野の著名人を網羅。「中央公論」「改造」に先駆けた日本初の総合雑誌。

総目次・索引・編集委員 / 青木稔弥 池内輝雄 井澤恒夫 梅澤宣夫 大野亮司 金子明雄 紅野謙介 佐久間保明 曾根博義 高橋修 竹松良明 吉田司雄 林淑美 和田敦彦 (50音順)

豊富な口絵から (全五三二冊中の口絵頁数は約七〇〇頁)



日露戦争(日本軍による砲撃) 印度孟買海岸埠頭と遊船 台湾神社の祭典 テレヴィジョン 東京の新年  
札幌市街(明治5) 鹿児島市風災後の惨状 平壤大攻撃パノラマ(小山小太郎筆) 大連の日本橋(明治43)  
三池炭鉱全景 アムンゼンの北極探検 シカゴ対早慶大学野球 足尾銅山の現況  
内閣総理大臣山県有朋 アインシュタイン 巴里大博覧会電気宮並に水殿 労働露国の現状



# 「太陽」の驚くべき広さ

山口昌男

京都の国際日本文化研究センターでは過去五年くらい「太陽」の総合的研究と題するプロジェクトが組まれて共同研究が行われて来た。この間各分野の研究において平行して同様の研究が行われてきた。例えばアジア経済研究所「博文館『太陽』の研究」などがある。又アメリカの大学の博士論文に、日本におけるメディアの成立という研究テーマで「太陽」の販路の綿密な調査が行われた。

このように明治二十年代から昭和初年に至る期間の総合雑誌の原型として「太陽」の果たした役割は大きい。版元の博文館が本来海外ニュースの通信社として出発した出版社だけに「太陽」の取り上げた話題は今日で言えば社会科学・人文科学・文学・芸術・農業・工業など驚くべき広さを示している。更に依田学海などによる漢文欄・斎藤秀三郎の手による英文欄のごとく過去と未来・洋の東西を結ぶ役割を果たした。その上「北進論平南進論平」といった特別増刊を出して、時代を超えた問題をも提起している。アジア経済研究所版と較べて採録件数が二倍である事、文学系のすべてを採録されている事、木口木版の技術を知るに便利な口絵を数多く収載しているのは此の回のCD-ROM版の嬉しく、有難いところである。私個人は古書店で一点一点百五十冊くらい集めて来たが、これで古書蒐集の最大の愉しみの一つが減ったことは断言できる。

(文化人類学者・札幌大学学長)

# 時代の空気を問いかける雑誌

大濱徹也

「太陽」は、日清戦勝の熱気をうけて創刊され、明治維新をこえる第二維新をなすべき雑誌として、明治・大正と雄飛する日本を代弁する言論の府でした。当代の著名な政治家・学者・文学者らは、「太陽」に発言することとて、己の場を世に問うたのです。その誌面は、昭和維新前夜に終刊するまで、明治日本の栄光を代表せんとした最大の総合雑誌にふさわしく、時代が醸す雰囲気や現況を体現しています。「豊富な口絵から」欄に掲載したような世界各地の風物写真、「衛生唱歌」などの多種多様な広告写真は、論説・雑報・小説等とともに、「太陽」を纏くことで知りうる時代の空気が奏でる世界にはかなりません。歴史を洞察するには時代の空気を感じることが求められます。「太陽」が発散する時代の味や香りを、CD-ROM版で身近かに手にしうる日がきたのを喜び、広く江湖に推奨するものです。

(筑波大学教授)

# すぐれた検索機能をつけた 画像データベースの闊歩を夢見る

ロバート・キャンベル

旅順の戦いに破れた中国が、講和使節を日本に向けたのは明治二十八年一月、初の総合雑誌「太陽」が創刊されたその月である。表紙を飾ったのは、暗雲を切り裂きアジアを照らす赫々たる太陽、大橋新太郎の発刊の辞によれば、「深窓に眠るの日本人に非ずして、五大州中に闊歩するの大日本人」が眼中の読者だったという。旧弊によろやく勝ち抜いた新国民、というイメージが強いが、中の「文苑」欄をみると、ほかでもない天保老人こと依田学海など、旧来の漢詩人大部分がずらりと創刊と戦勝を言祝いでいる。総合雑誌が、新旧の相まじわる場所でもあったのである。そして何年か経つと、太陽はおおらかな大日輪と化し、波静かな海をわたる蒸気船、工場の煙突、実りきった一面の稲穂に光を注ぐようになる。

創刊後、三十四年にわたって思想と文学と国民生活を横断的かつ緊密につむぎ合わせたのは「太陽」である。今回、すぐれた検索機能をつけて画像データベースとして全貌が録ると聞く。語彙、人物、事件、画像——どれをとつても明治から大正の水脈がひそんでおり、その間の個々の文学や思想を深く読解するのに、もっとも有効な財源になるに違いない。筆者は一日も早く、その中を闊歩したい。

(国文学研究資料館助教)

# 主な記事 総記事数約4万点強

政治 尾崎行雄「立憲的専制国」M29-10 / 高田早苗「帝国主義を採用するの得失如何」M35-6 / 坪井正五郎「帝国版図内の人種」M39-10 / 美濃部達吉「上杉博士の「国体に関する異説」を読む」M45-7 / 帆足理一郎「デモクラシイの意義」T8-4 / 浅田江村「ポルシェヴィズムの天下」T10-1 / 浮田和民「普選実施の影響と女子参政権問題」T14-4 / 田中正造「議員の質問と政府の答弁」M30-1  
外交 鳩山和夫「日独条約論の駁撃に答ふ」M30-3 / 肥塚徳「日露協商論」M30-4 / 中江兆民「国民党の本分」M31-2 / 川崎紫山「支那帝国と鉄道経営」M31-3 / 杉浦重剛「第二維新の好時期」/ 後藤新平「世界的日本の実行」M37-2 / 渡辺修二郎「樺太事歴」M38-8 / 川崎巳之助「米国加州現存の日本人排斥法」M40-1 / 長瀬鳳輔「欧州大戦の真相」T3-9 / 末広一雄「露国の革命と外交界の影響」T6-5 / 千賀鶴太郎「日本西伯利亚出兵論」T7-4 / 浮田和民「欧州大戦の歴史的意義」T10-8 / 松波仁一郎「太平洋会議」T10-9 / 三宅雪嶺「強過ぎて置く」T10-12 / 河西太一郎「農民解放理論と国民党の農民政策」S2-4 / 野呂栄太郎「フチ・帝国主義」論批判(高橋亀吉氏の所論を駁す)S2-6  
社会 井上円了「仏教各宗本山の通弊を論じて内地雑居の準備に及ぶ」M30-9 / 大島圭介「清国に対する古今感情の変遷」M32-5 / 戸田海市「社会主義と日本国民」M44-1 / 浮田和民「乃木大将の殉死を論ず」T1-11 / 早川千吉郎「日本の労働問題批判」T8-8 / 小西重直「米国に於ける人種問題と教育」T11-10 / 長沢柳作「人口問題に就いて」T12-1 / 水野龍「悲観か楽観か ブラジル移民の将来」T13-6 / 小野英二郎「民心動揺の時代」T14-6 / 柳田昌植「農村不安の原因と其対策」T15-9 / 賀川豊彦「青年に与ふ 唯物的社会運動に就て」S2-7  
軍事 福本誠「海軍拡張上の二大急務」M29-1 / 釈宗演「軍隊の安心立命」M37-4 / 鳥谷部春汀「嗚呼広瀬中佐」M37-5 / 杉森孝次郎「思想備の充実を先要条件とする軍備の充実」T10-3 / 春山作樹「軍隊教育と生活改善」T11-4 / 沢柳政太郎「軍事教育と師範改善案を評す」T14-2  
科学 中島力蔵「伝染病と公共心」M31-9 / 中浜東一郎「食物の取締と衛生試験」M32-7 / 土屋清三郎「日本医学会総会を通じて観る医学の趨勢」T7-5 / 常岡良三「予防注射及びワクチン論」T9-5  
芸術 泉鏡花「海城発電」M29-1 / トルストイ(太田玉茗訳)「断崖」M29-10 / ツルゲーネフ(二葉亭四迷訳)「うき草」M30-5 / 坪内雄蔵「美術上に所謂歴史的という語の如何」M32-11 / 久米桂一郎「新印象派の影響」M44-6 / 宇野浩二「子を貸し屋」T12-3 / 小松耕輔「欧米音楽会の現況」T12-8 / H・G・ウェルズ「科学小説 怪星」T13-61 / 加藤武雄「大衆文学は小乗文学」T14-7  
地理 志賀炯川「南洋風土」M28-12 / 石黒忠恵「台湾日誌」M30-1 / 大橋乙羽「欧米見聞録」M33-11 / 神保小虎「洋行艱難録」T2-8 / 石川寛治・昇曙夢・中村不折・南薫造・坪谷水哉「瀬戸内風景論」T2-9  
家庭教育 若松殿子「主婦となりし女学生の経験」M29-2 / 下田歌子「西洋の女子教育と家庭」M30-4 / ベルツ「体育」M31-5 / 新渡戸稲造「ノラは」T2-7 / 杉江薫「ヒステリー性の婦人」T2-10 / 与謝野晶子「婦人会評論」T4-1 / 山田わか「母性保護問題(与謝野氏と平塚氏の所論に就て)」T7-9 / 長谷川如是閑「婦人運動の根本問題」T10-7 / 千葉亀雄「女性の男性化 男性の女性化」T14-9  
文化 三宅雄次郎「国字を論ず」M28-5 / 高山林次郎「日本主義に対する世評を慨す」M30-7 / 三宅秀「精神病者に対する国家の事務」M33-7 / 鳥居龍蔵「沖縄諸島に住居せし先住民に就て」M38-1 / リルケ(森林太郎訳)「家常茶飯」M42-10 / 平出修「思想発表の自由を論ず」M44-2 / 小川郷太郎「電灯問題」T2-12 / 安部能成「内生活と外生活」T4-10 / 安部磯雄「死期に近づける公娯制度」T5-6 / 有島武部「クラハの出家」T6-9 / 本間久雄「社会改造運動と当来の文芸」T9-3 / 児玉花外「近東会議とパイロン」T12-8 / 竹久夢二「愚夫愚息図(\*絵と文)」T13-5 / 平林初之輔「プロレタリアの文学運動」T15-1 / 岩崎純孝「ジャーナリズムの革命時代」T15-4



第27巻第8号 不老長生之研究

# 「太陽」主な特集号

|                |    |    |            |       |
|----------------|----|----|------------|-------|
| 博文館創業十周年記念臨時増刊 | 3  | 12 | 一八九七(明治三〇) | 六・一五  |
| 莫都三十年          | 4  | 9  | 一八九八(明治三一) | 四・二八  |
| 明治十二傑          | 5  | 13 | 一八九九(明治三二) | 六・一五  |
| 現行改正条約類纂       | 5  | 19 | 一八九九(明治三三) | 八・二五  |
| 十九世紀           | 6  | 8  | 一九〇〇(明治三三) | 六・一五  |
| 世界一周           | 6  | 14 | 一九〇〇(明治三三) | 一一・三  |
| 世界国勢要覽         | 7  | 11 | 一九〇一(明治三四) | 九・一〇  |
| 海之日本           | 8  | 13 | 一九〇二(明治三五) | 六・一五  |
| 世界国勢要覽         | 8  | 18 | 一九〇三(明治三五) | 六・一五  |
| 陸の日本           | 9  | 7  | 一九〇三(明治三六) | 一〇・二〇 |
| 世界国勢要覽         | 9  | 12 | 一九〇三(明治三六) | 一〇・二〇 |
| 明治史第一編         | 10 | 2  | 一九〇四(明治三七) | 一一・一五 |
| 滿韓大觀           | 10 | 9  | 一九〇四(明治三七) | 六・一五  |
| 日露海戦史          | 10 | 15 | 一九〇四(明治三七) | 一一・二〇 |
| 明治史第二編         | 11 | 3  | 一九〇五(明治三八) | 一一・二〇 |
| 世界之帝王          | 11 | 9  | 一九〇五(明治三八) | 六・一五  |
| 明治史第三編         | 11 | 11 | 一九〇五(明治三八) | 一一・二〇 |
| 明治史第四編         | 12 | 3  | 一九〇六(明治三九) | 一一・二〇 |
| 戦時経営           | 12 | 9  | 一九〇六(明治三九) | 六・一五  |
| 明治史第五編         | 12 | 15 | 一九〇六(明治三九) | 一一・二〇 |
| 交通発達史          | 12 | 15 | 一九〇六(明治三九) | 一一・二〇 |
| 明治史第六編         | 13 | 3  | 一九〇七(明治四〇) | 一一・二〇 |
| 政党史            | 13 | 9  | 一九〇七(明治四〇) | 一一・二〇 |
| 明治名著集          | 13 | 15 | 一九〇七(明治四〇) | 六・一五  |
| 外人の日本觀         | 13 | 15 | 一九〇七(明治四〇) | 一一・三  |
| 黄白人の衝突         | 14 | 3  | 一九〇八(明治四一) | 一一・二五 |
| 現代之趨勢          | 14 | 9  | 一九〇八(明治四一) | 一一・二五 |
| 現代の代表的人物       | 14 | 15 | 一九〇八(明治四一) | 一一・二五 |
| 明治史第七編         | 15 | 3  | 一九〇九(明治四二) | 一一・二〇 |
| 文芸史            | 15 | 9  | 一九〇九(明治四二) | 一一・二〇 |
| 新進二十五名家        | 15 | 15 | 一九〇九(明治四二) | 一一・二〇 |
| 伊藤博文公          | 16 | 2  | 一九一〇(明治四三) | 一一・二〇 |
| 一等國            | 16 | 9  | 一九一〇(明治四三) | 一一・二〇 |
| 日英大博覽會         | 16 | 15 | 一九一〇(明治四三) | 六・一五  |
| 日本民族の膨張        | 16 | 15 | 一九一〇(明治四三) | 一一・二〇 |
| 現代社会觀察         | 17 | 3  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 列強外交時局         | 17 | 9  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 戦争平和和平         | 17 | 15 | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 雄飛廿五年          | 18 | 9  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 大正維新之風雲        | 19 | 4  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 近時之婦人問題        | 19 | 9  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 南進平北進平         | 19 | 15 | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 内閣組織と政党        | 20 | 8  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 御大社記念          | 21 | 14 | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 世界及支那と日本       | 22 | 8  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 日本と世界          | 23 | 7  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 世界大再造          | 24 | 8  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 世界大戦           | 25 | 8  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 世界不安           | 26 | 7  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 不老長生之研究        | 27 | 8  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 皇室の光輝          | 28 | 8  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 日本山水大觀         | 29 | 8  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 最新保険の研究        | 30 | 8  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 世界の驚異          | 31 | 8  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 自然美の日本         | 32 | 8  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 明治大正の文化        | 33 | 8  | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |
| 昭和三年 太陽年鑑      | 33 | 14 | 一九一〇(明治四四) | 一一・二〇 |



# アプリケーションの特色

アプリケーション(「太陽総目次・執筆者索引」)は単体でも販売いたします。各号の表紙・目次・奥付の画像のみ収録されています。

## CD-ROM版 太陽の特色

膨大な原本をコンパクトに 太陽原本五三二冊、一七五、余頁(書棚ほぼ二棹分)をCD-ROM七七枚に収録。伸縮自在なデジタル画像 太陽原本の表紙から奥付まで広告頁を含むすべてをデジタル画像で収録。表示画面の拡大縮小は思いのまま。最大に拡大すればルビまではっきり見えます。最大画面では自動的にパンウィンドウが開き、画面がどの位置を表示しているかのナビゲータになります。美しいカラー画像 表紙・口絵・本文中の色刷り頁百枚を選んで、カラー画像を附載。モノクロ画像と切替られます。行き届いた検索データ 検索用のデータは本文中の見出しを元に四万余件のデータを作成。検索データは巻号数・発行年月日・題名(分類+総題・個別題・細目)・執筆者名・参考執筆者名読みの各項目からAND/OR検索・絞込検索等の自在な検索が可能。

検索データに書き込み可能 検索データの欄外には書き込みが出来る、「ユーザメモ欄」を設けました。そのため、各レコードにユーザ独自の書き込みが出来(256バイト分)、その項目の検索も出来ます。

検索データの外部出力 検索用のデータがCSV形式(カンマ区切りのテキストファイル)のデータとして出力できます。つまり、エクセル・アクセス・桐などユーザの使いなれた表計算・データベースソフトにとりこんで、縦横無尽に活用することが可能です。ちなみに、「執筆者名」と「参考執筆者名」の項目のみ出力して、お使いのIME(日本語入力システム)の単語一括登録機能を使って取り込めば、文字変換のヒット率も飛躍的な向上が期待できます。

進化したプリントアウト機能 従来のようにディスプレイに一つ一つの記事を表示させてからプリントアウトできるのももちろん、検索結果画面から直接ボタン一つでプリンタに出力できるようにしました。その上、選択オプションボタンで表紙・目次・奥付も一緒にプリントアウトすることが可能になり、全くの手間いらずになりました。

群検索機能を搭載 より高度な検索をするために群検索機能を設けました。題名や人名といった大きなまとまり毎に検索出来ます。たとえばある人名を表わす文字列で検索すると、その人が書いたものとその人について書かれたものとの両方にヒットする事が可能になりました。

人名検索機能は分類+総題・個別題・細目・執筆者名・参考執筆者名よみの六項目を一遍に検索します。

## 簡単な検索・自在な印刷の例

ステップ① 検索語の入力

「題名検索」画面で検索語に「戦争」と入力。太陽書誌データ全約四万点の中から瞬時に検索します。

ステップ② 検索結果の表示

検索結果が一覧で表示。ここでは「戦争」を含む語が三〇八件ありました。この一覧結果は、印刷はもちろん、テキスト形式による書き出しが可能です。

書き出したデータ(CSV形式)をエクセル・アクセスなどお手持ちの表計算ソフト、及びデータベースソフトなどに取り込んで自分なりのデータとして加工することが可能となりました。

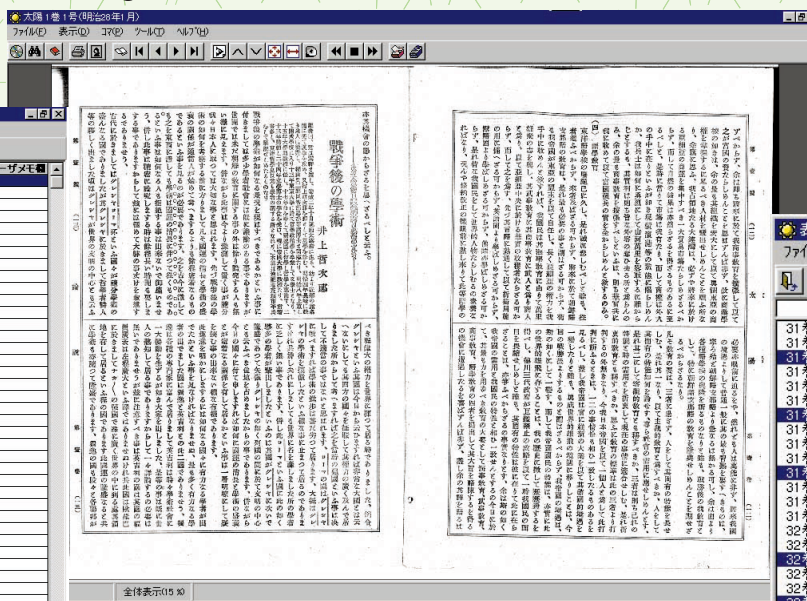
ステップ③ 画像の表示

検索結果を選択、ダブルクリックすると対象の画像が表示されます。拡大・縮小も自在です。「しおり機能」を使えばすぐに目的の画像へ戻れます。

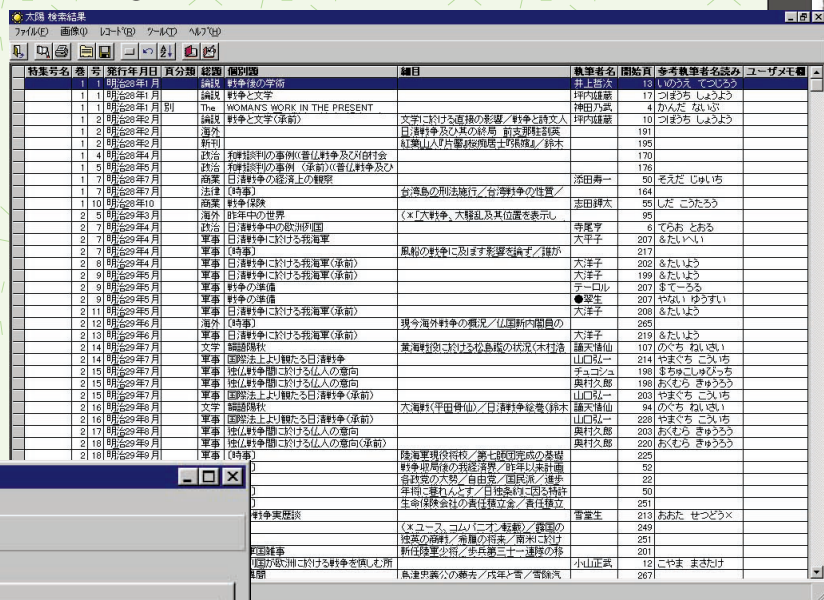
ステップ④ 印刷

画像表示画面からだけでなく、検索結果画面からも直接印刷が可能です。複数の記事を選択し、一括で印刷することもできます。本文の該当箇所に加えて、表紙・目次・奥付も一緒に印刷できます。

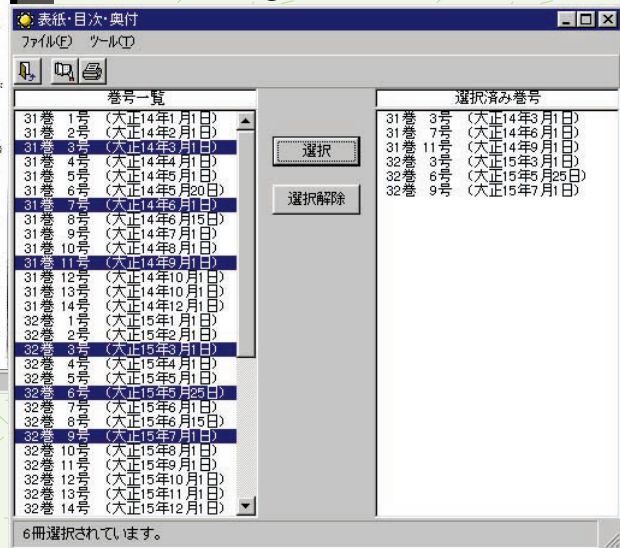
ステップ③—画像の表示



ステップ②—検索結果の表示



ステップ④—印刷



ステップ① 検索語の入力

